

【vol.34.5】オクターブの位置関係

どうも、大沼です。

前回のテキストでは「次回からは実戦に入っていく」と言うようなことを書きました。

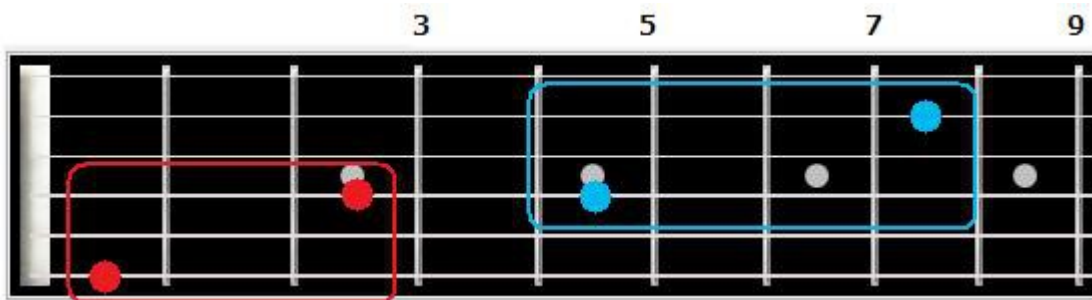
ですが、ちょっとその前に、これだけささと覚えてしまいましょう。

何をやるのかと言うと、タイトルにもある通り、『オクターブの位置関係』の確認です。

おそらくほとんど全ての人知っているであろう、有名なアレの他に、知っておくと便利なものを少しだけやっていきたいと思います。

さて、今言った様に、ジャズギタリストのウェス・モンゴメリーの『オクターブ奏法』で有名な、この2つの形はとっくに知っていることでしょう。

図1、定番のオクターブの位置関係



6～3弦の間でオクターブを見る場合は赤枠の形で、
4～1弦間で見える場合は青枠の形ですね。

なぜこの形になるのかは、ギター構造上の問題ですが、両者の形が違うのは、
ギターは3～2弦間だけチューニングが2全音の間隔だから、ですね。

(※他の弦同士だと2.5音間隔)

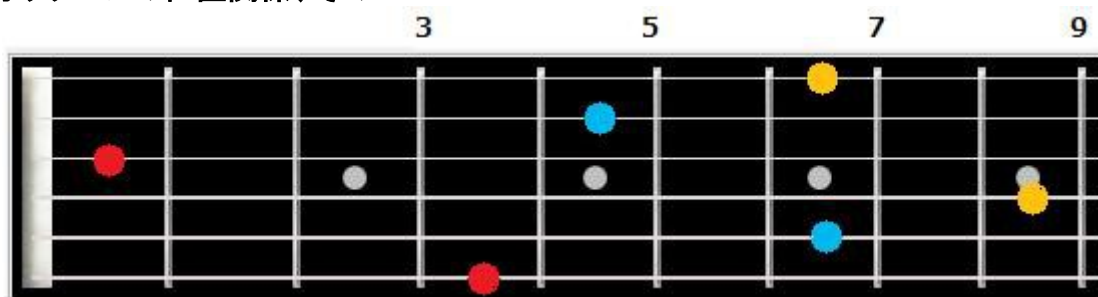
通常、ギターで『オクターブの位置』といったら、この2つを思い浮かべるはずですよ。

ですが今回は、この2つ以外にもある、指板上の音の把握に役立つ他のオクターブの位置関係を覚えます。

この辺りを覚えておくと、前回、前々回とやったインターバルを見る時や、コードフォームの理解に役立ったり、プレイ時の瞬間的な反応が変わってきます。

と、言うことで、新しく覚えるオクターブの位置はこちらです。
(※同じ色同士で対応しています)

図2、オクターブの位置関係、その2



この見方だと3つですね。(と、言っても青丸と黄丸は同じ形ですが)

これらの形も最初のものと同じく、2~3弦間をまたぐか否かで、フレット間隔が変わりますね。

で、何に使うのか？なのですが、個人的には、コードのルート音の位置の把握や、スケールのトニックの把握によく使いますね。
(※「使う」と言うよりは、「基準として見えている」と言った感じですが)

図3、コードのルートの位置(※例えばE7の場合)

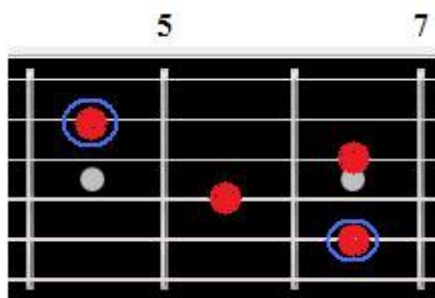
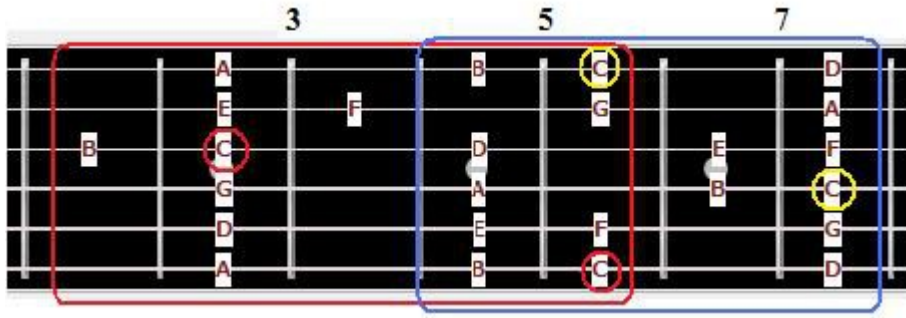


図4、スケールのトニックを見る(※Cメジャースケールの重要ポジション内での一例)



この位置関係を知っていると、練習時にスケールやコードを考える時に始まり、実際に演奏をする時も、弾くべきポジション等が見えやすくなります。

図1で挙げた有名な形の他にも、これらの見方も出来るようにしておきましょう。

では、短いですが今回は以上です。

ありがとうございました。

大沼